

新連載 霊的成長のススメ ①

「なぜススめるのか」

日本キリスト教団 赤坂教会牧師
姫井 雅夫

2017年に入りました。みなさんはいかなる目標と決意をもって新年を迎えられましたか。

2016年が始まった時、2017年第19回断食祈禱聖会のために、テーマや講師を主に祈り求めています。その時に示されたのが、「世界的危機に直面して」という文言でした。社会、倫理、経済、政治、教育、自然などあらゆる面で、「危機」を迎えるのではないかと思いました。

2016年の間に自然界は世界の各地で荒れ狂いました。さらに経済、社会も大きく乱れました。加えてオバマ氏の後にトランプ氏が選ばれたという選挙結果を見て、2017年はまさに「世界的危機」を迎えるのではないかと思われました。

これらに加えて、教会の危機が叫ばれています。信徒の数、礼拝出席者の数、教会の数の減少が著しくなってきました。現在約8000の教会が、2050年には5000になるのではないかという話を聞いて、「本当？」と驚きました。実際、諸教会の動きを見ても、確かに閉鎖や合併が行なわれています。もちろん新しく開拓されていく教会もあり、多くの人が集まっている教会もあります。

牧師たちが集まると、キリスト教人口が1%を超えないのはどうしてだろうという話題が始まります。それが何年も続いています。どうしてでしょうか。

そのような中で、年頭の目標・決意として次のようなことばが出てきます。

- * 地域の各家庭にトラクトを！
 - * 家族の中から救われる人を！
 - * ひとりがひとりを！
 - * キリスト教が礼拝と祈禱会を大切にするように！
 - * 1年間で10人を誘い、1人を洗礼に！
- などなど。

いかがですか、あなたも同じような目標を掲げたことがありますか。すばらしい目標です。でもそれが言葉だけで終わっていたら、ちょっとむなしいです。ことばだけで終わるのはなぜだろうか、ここがカギではないでしょうか。実践が伴わないということです。なぜ行動に移せないのだろうか。

高価な車で、デザインも素敵です。でも動かない。ガソリン・タンクが空？ ちょっと動いたけれど、すぐ動かなくなる？ 最近では電動の車があるので、蓄電されていないということかな？

今回、FFJから「霊的成長のススメ」というテーマを頂いて執筆することになったのですが、的をはずさないように論点をまとめていきたいと思えます。

そこで、5回にわたってこのテーマを共に考えてみたいと思っています。

- ①なぜ「霊的成長のススメ」をするのか
- ②霊的成長をするためには
- ③霊的成長の継続
- ④霊的成長の喜び
- ⑤ゴールをめざして

今回はなぜススめるのか、ということに絞ってみましょう。

すでに序論でススめる理由をいくつか挙げてきました。霊的危機が世界中に広がっているから。キリスト教の数が（依然として1%を越えない）、礼拝出席者の数、教会の数が著しく減少しているから。キリスト教の霊的成長が見られないから。これらは消極面です。

では積極面から「ススめる理由」を思い巡らしてみよう。各キリスト教が、教会が「霊的成長」を体験していけば、どんなことが起こるでしょうか。ガソリンがいつも満タン、充電がしっかりなされているなら、車は動き出し、動き続けます。キリスト教が、教会が霊的成長をしていたら、どんなことが期待できるでしょうか。ご一緒にこの楽しみを求めていきましょう。

キリスト教の歴史の長いヨーロッパで、キリスト教の数が、教会の数が激減しているという事実。異端の動き、イスラムの動き、世俗化の動き、共産圏でのキリスト教布教の締め付け、迫害、殉教。このような

理由を上げることができるでしょう。霊的危機です。この波は日本にも、じわじわと入り込んでいます。

霊的危機を乗り越えていくためには、霊的成長が必須です。霊的成長は、喜び、力、希望をもたらします。まさにキリスト教としての生き様が霊的成長なのです。アフリカやイスラム圏で、キリスト教の数が増え、キリスト教・グループが増えているというニュースも入ってきます。

マタイ24章には、弟子たちの質問（3節）へのイエスの答えが記されています（4節～25節、46節）

そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。そのとき、人々は、あなたがたを苦しめめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。また、そのときは、人々が大ぜいつまずき、互いに裏切り、憎み合います。また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。

それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべきもの』が、聖なる所に立つのを見たならば、（読者はよく読み取るように。）そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。だがその日、哀れなのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はいないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます。そのとき、『そら、キリストがここにいる』とか、『そこにいる』とか言う者

があっても、信じてはいけません。にせキリスト、にせ預言者たちが現れて、できれば選民をも惑わそうとして、大きなしるしや不思議なことをして見せます。さあ、わたしは、あなたがたに前もって話しました。46節 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしるしは幸いです。

終末に関する教えです。私たちが生きている時代は、終末でしょうか。イエスにとっては一日は千年のようであり、千年は一日のようだとされています（Ⅱペテロ3章8節）し、思いがけない時に来る（マタイ24章44節）とも言っておられます。いつであつてもよいように、備えておく必要があります。つまり霊的成長が大切なのです。

最近DV（家庭内暴力）が話題になり、その被害者が多く出て、社会問題になっています。意気投合して結婚をし、家庭を形成して来たのです。ところが社会状況や職場状況が変わり、ご主人は仕事に追い回されるようになります。家庭を顧みず、仕事に振り回されます。疲れたご主人は、帰宅してからも機嫌が悪く、妻や子に暴言を吐き、暴力を振るうようになります。信仰を持っていたはずですが、仕事に追われて礼拝に行けなくなり、教会から離れていきます。奥さんは何とか信仰を保ち、礼拝に励み、祈るのですが、ご主人との距離はどんどん離れていきます。ご主人の暴力が激しくなると、子どもを連れて家出を余儀なくされます。このような家庭が増えています。

FFJでは、このような課題に、真摯に向き合っています。夫婦の基盤が信仰であり、聖書でした。ところがいつの間にか、その基盤が壊れ、家庭も崩壊してきます。霊的成長の必要性がここでも如実になっています。どのようにしたら、霊的基盤を強化することができるのでしょうか。幸せで、落ち着いた家庭を形成することができるのでしょうか。次回ご一緒に思い巡らしてみよう。



姫井 雅夫

